

# HP Data Protector 6.20

## スタートアップガイド

製品番号:  
初版: 2011年3月



## ご注意

© Copyright 2011

本書に記載されている内容は事前の通知なしに変更されることがあります。HP製品およびサービスに対する保証は、当該製品およびサービスに付属の明示的保証規定に記載されているものに限られます。本書のいかなる内容も当該保証に新たに保証を追加するものではありません。HPは、本書中の技術的あるいは校正上の誤り、省略に対して責任を負いかねます。

Windows®は、米国におけるMicrosoft Corporationの登録商標です。

Intel®およびPentium®は、米国およびその他の国におけるIntel Corporationの商標です。

UNIX®は、The Open Groupの登録商標です。

Java™は、米国におけるSun Microsystems, Inc.の商標です。

---

# 目次

1 インストール .....	5
Windowsシステムへのインストール .....	5
前提条件 .....	5
Cell Managerのインストール .....	6
インストールの準備 .....	6
Data Protectorのインストール .....	7
Data Protectorの実行 .....	8
クライアントのインストール .....	8
前提条件 .....	8
Cell Manager GUIからのリモートでのインストール .....	9
インストール対象のシステム上でのローカルなインストール .....	9
UNIXシステムへのインストール .....	9
Cell Managerのインストール .....	10
前提条件(HP-UX) .....	10
前提条件(Solaris) .....	10
前提条件(Linux) .....	10
手順 .....	11
Data Protectorの実行 .....	11
クライアントのインストール .....	11
前提条件 .....	11
リモートインストール .....	12
ローカルインストール .....	12
次に行う手順 .....	13
バックアップデバイスの構成 .....	14
ファイルライブラリデバイスの構成 .....	14
スタンドアロンドライブの構成 .....	15
メディアのフォーマット .....	15
2 システムのバックアップ .....	17
基本的なバックアップルーチンのスケジュール設定 .....	17

3 バックアップからの復元 .....	19
4 詳細情報 .....	21
Data Protector関連マニュアル対応表 .....	21
マニュアル対応表 .....	21
略称 .....	21
対応表 .....	22
統合ソフトウェア .....	23
ライセンス .....	25
問い合わせ先 .....	25

---

# 1 インストール

---

## ☒ 注記:

本ガイドは、完全なData Protector製品に適用されます。シングルサーバー版をお持ちの場合、ここに記載の一部のプラットフォームと機能は適用されません。

---

このガイドは、Data Protector をすぐにお使いいただけるように作成されています。デフォルトの設定を使用すると、迅速かつ簡単にソフトウェアのインストール、バックアップの作成、および復元を行うことができます。

## Windowsシステムへのインストール

---

### ☒ 注記:

インストールに関する完全な解説については、Windowsインストール用DVD-ROMの最上位レベルの/docsディレクトリに収められている『HP Data Protectorインストールおよびライセンスガイド』を参照してください。

---

## 前提条件

- ・ 管理サーバ(Cell Manager):
  - ・ 256MB RAM (推奨512MB)
  - ・ 190 MBのディスクスペース+バックアップ予定のデータサイズの2%
- ・ バックアップクライアント(Disk Agent):
  - ・ 64 MB RAM (推奨128 MB)
  - ・ 10 MBのディスクスペース
- ・ デバイスサーバ(Media Agent):

- ・ 64 MB RAM (推奨128 MB)
- ・ 20 MBのディスクスペース
- ・ オリジナルユーザーインタフェース(GUI):
  - ・ 256 MB RAM
  - ・ オリジナルGUI用の150 MBのディスクスペース、またはJava GUI用の40 MB (推奨60 MB)のディスクスペース
- ・ Javaユーザーインタフェース(Java GUI):
  - ・ Intel Pentium 1000 MHzまたは同等品(推奨Intel Pentium IV 2.6 GHzまたは同等品)
  - ・ 512 MB RAM (推奨1 GB)
  - ・ 40 MBののディスクスペース(推奨60 MB)
  - ・ Java GUIクライアントの場合、Java Runtime Environment (JRE) 1.5.0\_06以降のアップデート(1.5.0\_07など)
- ・ ガイド
  - ・ PDF形式のガイド用の85 MB

1台のシステムにすべてのコンポーネントをインストールする場合、そのシステムには、ディスクスペース305 MBと、最低256 MBのRAM (推奨512 MB)が必要です。

これらの数値はコンポーネントのみに関する要件です。オペレーティングシステム、ページングファイル、またはその他のアプリケーションに割り当てるディスクスペースのサイズは含まれていません。

## Cell Managerのインストール

サポートされているプラットフォームの詳細については、<http://www.hp.com/support/manuals>にある最新サポート一覧を参照してください。

### インストールの準備

1. Data Protector Cell Managerとなるシステム上で以下の操作を行います。
  - a. スタンドアロンテープドライブをお使いの場合、テープドライブをData Protector Cell Managerに接続して、電源を入れます。
  - b. TCP/IPプロトコルとホスト名解決を使用可能にします。  
使用可能かどうかを確認するには、以下の手順に従ってください。
    - i. コンピュータ名を検索し、名前解決が正しく機能していることを確認します。
      - ・ コマンドプロンプト(Windowsプラットフォームの場合)またはターミナル (UNIXシステムの場合)を起動します。

- ・ hostnameと入力します。  
使用しているコンピュータの名前が表示されます。

ii. 名前解決と到達性を確認します。

- ・ 以下のコマンドを入力します。nslookup <ホスト名>
- ・ DNSの逆引きを行うため、以下のコマンドを入力します。nslookup <IPアドレス>

両方のコマンドから同じホスト名とIPアドレスが返された場合、ネットワークは正しく設定されています。

ネットワークに問題がある場合は、『*HP Data Protectorトラブルシューティングガイド*』を参照してください。

c. 固定IPアドレスを割り当てます。

d. Windowsテープデバイスとチェンジャドライバを非アクティブ化します(推奨)。これらのドライバは、このテープデバイスに他のアプリケーションがアクセスしている場合など、例外的なケース以外は使用しないでください。

2. システムにAdministratorユーザー(Windowsシステムの場合)またはrootユーザー(UNIXシステムの場合)としてログオンします。
3. Data Protectorで使用するオペレーティングシステムアカウント(dpadminなど)を個別に設定します。

Windowsシステムの場合、必ず以下の条件を満たすようにします。

- ・ 設定したユーザーがAdministratorsおよびBackup Operatorsユーザーグループのメンバーであること
- ・ そのユーザーに「サービスとしてログオン」権利が付与されていること

これは、必要なサービスを動作させる目的のみに必要なユーザーアカウントで、特定のシステムへのログオンには使用されません。

このアカウントは、サーバおよびクライアントのインストール時のData Protectorサービスアカウントとして使用します。Windowsドメインでは、このユーザーアカウントをプライマリドメインコントローラに設定するだけで十分です。

## Data Protectorのインストール

1. Windowsインストール用DVD-ROMを挿入して、ウィザードを起動します。
  - ・ 32ビットシステムの場合: ¥i386¥setup.exe
  - ・ 64ビットのAMD64/Intel EM64Tシステムの場合: ¥x8664¥setup.exe
  - ・ 64ビットのItaniumシステムの場合: ¥ia64¥setup.exe
2. [Cell Manager]を選択し、デフォルト値を使用してウィザードの指示に従います。
3. [アカウント情報]ウィンドウで、インストールの準備手順の手順3で作成したユーザーアカウントのユーザー名とパスワードを入力します。

## Data Protectorの実行

[スタート]→[プログラム]→[HP Data Protector]→[Data Protector Manager]の順に選択します。

詳しくは、DVD-ROMの最上位ディレクトリの¥docsディレクトリに収められているマニュアルを参照してください。

## クライアントのインストール

<http://www.hp.com/support/manuals>を参照して「Data Protector」を検索してください。本リリースでサポートしているプラットフォームについては、バージョン6.20を選択してください。

## 前提条件

- ・ インストール済みのCell Manager
- ・ 管理者の権限および管理者パスワード
- ・ TCP/IPプロトコルとノード名解決を使用可能にする

RAMおよびディスクスペース—最小値および推奨値

クライアントシステムコンポーネント	RAM (MB)	ディスクスペース (MB)
オリジナルGUI	256 <sup>1</sup>	150 <sup>2</sup>
Java GUI <sup>3</sup>	512 (推奨1,000)	40 (推奨60)
Disk Agent	64 (推奨128)	10
Media Agent	64 (推奨128)	20
統合モジュール	64 (推奨128)	20
英語版ドキュメント(ガイド、ヘルプ)	n/a	85

<sup>1</sup>同時に表示する必要がある要素の数によって異なります。

<sup>2</sup>ページファイルだけは物理メモリの約3倍のサイズまで増加できるようにする必要があります。

<sup>3</sup>Java GUIも最低Pentium IIIプロセッサ1 GHzが必要です(Pentium IV 2.6 GHz推奨)。

## Cell Manager GUIからのリモートでのインストール

1. システムに管理者としてログオンします。
2. [スタート]→[プログラム]→[HP Data Protector]→[Data Protector Manager]の順にクリックします。
3. Data Protector Managerで[クライアント]コンテキストに切り替えます。
4. Scopingペインで、[クライアント]を右クリックし、[クライアントの追加]を選択してウィザードを起動します。
5. ウィザードの指示に従います。

## インストール対象のシステム上でのローカルなインストール

1. システムに管理者としてログオンします。
2. 以下のコマンドを実行して、Cell Managerシステムとクライアントシステム間のネットワーク接続を確認します。ping *CellManagerHostname*
3. 以下を実行します。
  - ・ 32ビットシステムの場合: ¥i386¥setup.exe
  - ・ 64ビットのAMD64/Intel EM64Tシステムの場合: ¥x8664¥setup.exe
  - ・ 64ビットのItaniumシステムの場合: ¥ia64¥setup.exe
4. [クライアント]を選択します。
5. ウィザードの指示に従います。
6. [Cell Managerシステム]ダイアログボックスに、Cell Managerの名前を入力します。

## UNIXシステムへのインストール

---

### 注記:

インストールに関する完全な解説については、UNIXインストール用DVD-ROMの/docsディレクトリに収められている『HP Data Protectorインストールおよびライセンスガイド』を参照してください。

---

## Cell Managerのインストール

---

### ☞ 注記:

サポート対象のプラットフォームについては、<http://www.hp.com/support/manuals> (英語)を参照してください。

---

バックアップデバイスがローカルに接続されたCell Managerを、デフォルト構成でインストールする例を以下に示します。

---

### ☞ 注記:

すべてのUNIXプラットフォームで、Java GUIのみをサポートしています。Java GUIには75～200 MBのディスクスペースが必要です(インストールされているオンラインヘルプの言語によって異なります)。英語の場合、必要なディスクスペースは75 MBです。Java GUI、Disk Agent、およびMedia Agentなどのディスクスペースを以下に示します。

---

### 前提条件(HP-UX)

- Java Runtime Environment (JRE) 1.5.0\_06以降のアップデート
- HP-UX 11.x
- 256MB RAM (推奨512MB)
- 350～550 MBのディスクスペース+バックアップ予定のデータサイズの2%

### 前提条件(Solaris)

- Java Runtime Environment (JRE) 1.5.0\_06以降のアップデート
- Solaris 8/9/10
- 256 MB RAM (推奨512 MB)
- 350～550 MBのディスクスペース+バックアップ予定のデータサイズの2%
- 各ターゲットシステムのルート権限
- kshシェル(デフォルトで提供)

### 前提条件(Linux)

- Java Runtime Environment (JRE) 1.5.0\_06以降のアップデート

- ・ 256 MB RAM (推奨512 MB)
- ・ 300～550 MBのディスクスペース+バックアップ予定のデータサイズの2%
- ・ Linux SUSE 9およびRedHat Enterprise 4.0については、libstdc++に関する前提条件があります。詳細は、『*HP Data Protector製品に関するお知らせ、ソフトウェア使用上の注意およびリファレンス*』の「インストールの要件」を参照してください。

## 手順

Data Protector Cell Managerで以下を実行します。

1. UNIXインストール用DVD-ROMをマウントポイントにマウントします。以下に例を示します。

```
mkdir/cdrom
mount/dev/dsk/c0t0d0/cdrom
```

2. omnisetup. shを実行します。DVD-ROMから以下のコマンドを実行します。

```
cd /cdrom/LOCAL_INSTALL
./omnisetup. sh -CM
```

3. 表示されるプロンプトに従います。

クライアントをCell Managerからリモートでインストールするか、またはローカルでインストールします。

## Data Protectorの実行

/opt/omni/bin/xomniと入力してData Protector GUIを起動します。

## クライアントのインストール

<http://www.hp.com/support/manuals>を参照して「Data Protector」を検索してください。本リリースでサポートしているプラットフォームについては、バージョン6.20を選択してください。

## 前提条件

- ・ 各ターゲットシステムのルート権限
- ・ kshシェル

RAMおよびディスクスペース-最小値および推奨値

クライアントシステムコンポーネント	RAM (MB)	ディスクスペース (MB)
Java GUI	512 (推奨1,000)	40 (推奨60)
Disk Agent	64 (推奨128)	10
Media Agent	64 (推奨128)	20
統合モジュール	64 (推奨128)	20
英語版ドキュメント(ガイド、ヘルプ)	n/a	80

## リモートインストール

Data Protectorユーザーインターフェースを使って、クライアントソフトウェアをクライアントに配布します。プラットフォームが異なるクライアントへのインストールも可能です。

1. /opt/omni/bin/xomniと入力してData Protector GUIを起動します。
2. Data Protector Managerで[クライアント]コンテキストに切り替えます。
3. Scopingペインで、[クライアント]を右クリックし、[クライアントの追加]を選択してウィザードを起動します。
4. ウィザードの指示に従います。ウィザードの各ページの詳細については、オンラインヘルプを参照してください。

Media Agentのインストール後、構成ファイル(/kernel/drv/st.conf)をチェックします。詳しくは、『HP Data Protectorインストールおよびライセンスガイド』の「Solarisクライアントのインストール」を参照してください。

最後に、バックアップデバイスをシステムに接続します。

## ローカルインストール

1. HP-UXインストール用DVD-ROMを挿入します。
2. インストール用DVD-ROMをマウントポイントにマウントします。
3. <マウントポイント>/LOCAL\_INSTALLに移動して、以下のコマンドを実行します。  
omnisetup.sh [-source <ディレクトリ>] [-server <サーバ名>] [-install <コンポーネントリスト>]

Data Protectorコンポーネントのコードの一覧については、『HP Data Protectorインストールおよびライセンスガイド』を参照してください。

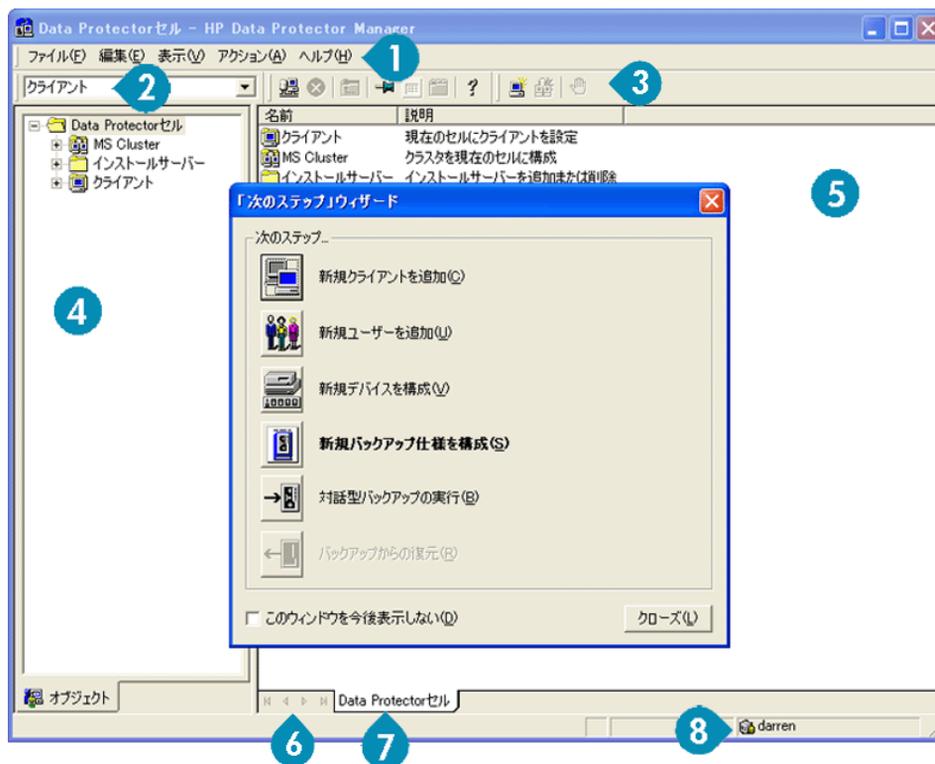
- インストールが完了した場合やクライアントがData Protectorセルにインポートされた場合は、omnisetupによるメッセージが表示されます。COREおよびCORE-INTEGコンポーネントは自動的にインストールされます。

Cell Manager名を指定していると、クライアントがセルにインポートされます。指定しなかった場合は、Data Protector GUIを使ってクライアントをインポートしてください。

## 次に行う手順

これでData Protector Managerの実行準備ができました。

Data Protector Managerを起動します。Data Protector Managerが開いて、[クライアント]コンテキストと[次のステップ]ウィザードが表示されます。



- |   |        |   |           |   |       |   |            |
|---|--------|---|-----------|---|-------|---|------------|
| 1 | メニューバー | 2 | コンテキストリスト | 3 | ツールバー | 4 | SCOPINGペイン |
| 5 | 結果エリア  | 6 | ナビゲーションタブ | 7 | 結果タブ  | 8 | ステータスバー    |



## 注記:

Java GUIは、上図と見た目が若干異なります。

## バックアップデバイスの構成

### ファイルライブラリデバイスの構成

ここでは、主にデフォルトオプションを使用して、基本的なファイルライブラリデバイスをローカルドライブまたは共有ドライブに構成する方法について説明します。その他の使用可能なオプションについては、オンラインヘルプの索引キーワード「バックアップデバイスの構成」で表示される内容を参照してください。

作業を開始する前にWindows上で圧縮オプションを無効にします。

1. ローカルディスクまたは共有ディスク上にディレクトリを作成します。  
例: C:\FileLibrary
2. Data Protector Managerを起動します。
3. コンテキストリストから[デバイス/メディア]を選択します。
4. [デバイス]を右クリックして、[デバイスの追加]を選択します。デバイスを定義する画面が表示されます。
5. デバイスの詳細を入力します。

デバイス名	(例: File Library Device 01)
説明	適宜
クライアント	このデバイスの接続先クライアントを選択します。
デバイスの種類	[ファイルライブラリ]を選択します。

[次へ]をクリックします。

6. 手順1で作成したファイルライブラリデバイスのディレクトリを指定し、[追加]をクリックします。
7. [次へ]をクリックします。結果エリアで、メディアの種類として[ファイル]を選択します。
8. [完了]をクリックします。

## スタンドアロンドライブの構成

### 自動構成

1. コンテキストリストから[デバイス/メディア]を選択します。
2. [デバイス]を右クリックします。
3. [デバイスの自動構成]を選択します。
4. リストからシステムを選択して、[完了]をクリックします。

デバイスが自動的に構成されます。

### 手動構成

上記のファイルライブラリデバイスの手順4までを実行します。

1. デバイスの詳細を入力します。

デバイス名	(例: LTO-3 Tape Drive)
説明	適宜
クライアント	このデバイスの接続先クライアントを選択します。
デバイスの種類	[スタンドアロン]を選択します。

[次へ]をクリックします。

2. SCSIアドレスをドロップダウンリストから選択します。[追加]をクリックします。
3. [次へ]をクリックします。結果エリアで、適切なメディアの種類([LTO]など)を選択します。
4. [完了]をクリックします。

## メディアのフォーマット

Data Protectorは、テープが認識できるように個々のテープに独自のヘッダを書き込みます。この項で説明するとおり、フォーマット操作は手動で行えます。また、自動で行うこともできます。Data Protectorでテープを使用するには、前もってテープをフォーマットしておく必要があります。テープをData Protectorで自動的にフォーマットする場合は、この項の手順を省略してください。

---

△ **注意:**

フォーマットにより、メディア上のデータはすべて削除されます。

---

1. [デバイス/メディア]コンテキストで、[プール]を展開します。
2. 適切なメディアプールを右クリックします。
3. [フォーマット]を選択します。
4. 結果エリアでドライブを選択して、[次へ]をクリックします。
5. デフォルトの設定値をそのまま使用して、[次へ]をクリックします。
6. [強制操作]と[メディアサイズ]セクションで[デフォルト]を選択した後、[完了]をクリックします。これにより、メディアのフォーマットが実行されます。

## 2 システムのバックアップ

バックアップ仕様の作成手順と基本的なバックアップの実行手順を以下に示します。

1. コンテキストリストで[バックアップ]をクリックします。
2. Scopingペインで[バックアップ]を展開した後、[バックアップ仕様]をクリックします。
3. 結果エリアで[ファイルシステム]を右クリックして、[バックアップの追加]を選択します。
4. [Blank Filesystem Backup]テンプレートを選択して[OK]をクリックします。
5. 結果エリアに表示される、バックアップ対象指定の画面でディレクトリ/ファイルをブラウザして、バックアップ対象のディレクトリ/ファイルの横にあるチェックボックスを選択し、[次へ]をクリックします。テープデバイスが接続されていない場合は、サイズの小さいディレクトリを複数選択することとめます。
6. デフォルトのバックアップオプションを使用するか、希望のバックアップオプションを選択して、[次へ]をクリックします。
7. 定義済みスケジュールを使用するか、希望するスケジュール用オプションを選択して、[次へ]をクリックします。スケジュール設定の例については、[基本的なバックアップルーチンのスケジュール設定](#)、17ページを参照してください。
8. 結果エリアにバックアップ仕様のサマリーが表示されます。[次へ]をクリックします。
9. バックアップ仕様を保存して後で使用する場合は、[別名で保存]をクリックします。
10. バックアップを実行するには、[バックアップ開始]をクリックします。
11. [バックアップ開始]ウィンドウが表示され、[OK]をクリックすると、デフォルトのバックアップ仕様でのバックアップが開始されます。
12. [バックアップ]ウィンドウに、バックアップセッションの進行状況が表示されます。バックアップが完了した時点で、その旨を知らせるメッセージが[セッション情報]ウィンドウに表示されます。

### 基本的なバックアップルーチンのスケジュール設定

たとえば、毎週金曜日にフルバックアップ、金曜以外の平日には増分バックアップを実行するスケジュールを定義するとします。バックアップはすべて21時に実行して、4週間保持し、さらに各月のフルバックアップについては12か月保持するとします。

Data Protectorには、複数の定義済みスケジュールが用意されています。「フルバックアップ(毎週)」が必要とする条件に(毎週金曜日のフルバックアップと金曜以外の平日の21時に行う増分1バックアップ)近いバックアップです。増分1バックアップは、前回のフルバックアップ以降の変更をすべてバックアップします。

#### スケジュールを定義する手順

1. 手順 3 (手動構成、15ページを参照)でバックアップ仕様を定義するときに、[スケジュール]タブに移動します。
2. [定義済み]をクリックします。
3. [毎週(フル)]を選択し、[OK]をクリックします。
4. [追加]をクリックします。
5. [繰り返し]で、[月単位]を選択します。  
[時間オプション]で、毎月のバックアップ時刻を選択します。  
[セッションオプション]で、[バックアップ保護]ドロップダウンリストから[週数]を選択し、下部のボックスに週数(1年=52週)を入力します。

バックアップのスケジュール

バックアップに関して希望する時刻、間隔、継続期間、種類を指定してください。

繰り返し

なし(N)

日数単位(D)

週単位(W)

月単位(M)

時間オプション

時間: 14:15

開始日を指定(O)

2009/08/05

繰り返しオプション(R)

スケジュール: 1 日目: 1 月

セッションオプション

バックアップの種類(V): フル

ネットワーク負荷:  高(H)  中(M)  低(L)

バックアップ保護(P): 週数

1

OK(O) キャンセル(C) ヘルプ(H)

6. [OK]をクリックします。
7. [適用]をクリックします。

---

## 3 バックアップからの復元

デフォルトでは、バックアップオブジェクトはバックアップ実行時のパスへ復元されます。以下に基本的な復元の実行手順を示します。

1. コンテキストリストで**[復元]**をクリックします。
2. **[ファイルシステム]**をブラウズして、復元対象のクライアントオブジェクトを選択します。結果エリアに**[復元]**ビューが表示されます。
3. ディレクトリ/ファイルをブラウズして、復元対象のディレクトリ/ファイルの横にあるチェックボックスを選択します。
4. **[あて先]**タブを選択して、復元先を選択します。何も選択しない場合、ディレクトリ/ファイルはバックアップ実行時と同じパスに復元されます。
5. **[復元]**ボタンをクリックします。**[復元セッションの開始]**ウィザードが表示されます。
6. ウィザードに表示されるデフォルト設定を使って操作を進めます(**[次へ]**と**[完了]**をクリックします)。
7. **[復元セッションの開始]**ウィンドウが表示されて、選択したオブジェクトのシステムへの復元状況が表示されます。



## 4 詳細情報

### Data Protector関連マニュアル対応表

#### マニュアル対応表

##### 略称

以下の表は、マニュアル対応表に使用されている略称の説明です。ガイドのタイトルには、すべて先頭に「HP Data Protector」が付きます。

略称	ガイド
CLI	コマンドラインインタフェースのリファレンス
Concepts	コンセプトガイド
DR	ディザスタリカバリガイド
GS	スタートアップガイド
GRE-SPS	Granular Recovery Extension User Guide for Microsoft SharePoint Server
GRE-VMware	Granular Recovery Extension User Guide for VMware vSphere
Help	オンラインヘルプ
IG-IBM	インテグレーションガイド - IBMアプリケーション: Informix, DB2, and Lotus Notes/Domino
IG-MS	Microsoftアプリケーション用インテグレーションガイド - SQL Server、SharePoint Server、およびExchange Server

略称	ガイド
IG-O/S	インテグレーションガイド - OracleおよびSAP
IG-OMU	インテグレーションガイド - HP Operations Manager for UNIX
IG-OMW	インテグレーションガイド - HP Operations Manager for Windows
IG-Var	インテグレーションガイド - Sybase、Network Node Manager、Network Data Management Protocol Server
IG-VirtEnv	Integration Guide for Virtualization Environments: VMware, Microsoft Hyper-V, and Citrix XEN Server
IG-VSS	インテグレーションガイド - Microsoftボリュームシャドウコピーサービス
Install	インストールおよびライセンスガイド
MO GS	Media Operations Getting Started Guide
MO RN	Media Operations製品に関するお知らせ、ソフトウェア使用上の注意、リファレンス
MO UG	Media Operationsユーザーガイド
PA	製品案内、ソフトウェアノート、リファレンス
Trouble	トラブルシューティングガイド
ZDB Admin	ZDB Administrator's Guide
ZDB Concept	ZDBコンセプトガイド
ZDB IG	ZDB Integration Guide

## 対応表

以下の表は、各種情報がどのドキュメントに記載されているかを示したものです。黒く塗りつぶされたセルのドキュメントを最初に参照してください。

	Help	GS	Concepts	Install	Trouble	DR	PA	インテグレーションガイド								ZDB			GRE		MO							
								MS	O/S	IBM	Var	VSS	VirEnv	OMU	OMV	Concept	Admin	IG	SPS	VMware	GS	User	PA	CLI				
バックアップ	X	X	X					X	X	X	X	X	X		X	X	X											
CLI																											X	
概念/手法	X		X					X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X									
ディザスタリカバリ	X		X			X																						
インテグレーション	X	X		X			X							X	X								X	X				
インスタントリカバリ	X		X													X	X	X										
ライセンス	X			X			X																	X				
制限事項	X				X		X	X	X	X	X	X	X				X										X	
新機能	X						X																			X		
プランニング方法	X		X													X												
手順/作業	X			X	X	X		X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X				X				
推奨事項			X				X									X											X	
必要条件				X			X	X	X	X	X	X	X	X	X								X	X	X			
復元	X	X	X					X	X	X	X	X	X				X	X	X	X								
サポートされる構成																X												
トラブルシューティング	X			X	X			X	X	X	X	X	X	X	X		X	X	X	X								

## 統合ソフトウェア

以下のソフトウェアアプリケーションとの統合に関する詳細については、該当するガイドを参照してください。

ソフトウェアアプリケーション	ガイド
HP Network Node Manager (NNM)	IG-Var
HP Operations Manager	IG-OMU、IG-OMV

ソフトウェアアプリケーション	ガイド
IBM DB2 UDB	IG-IBM
Informix Server	IG-IBM
Lotus Notes/Domino Server	IG-IBM
Media Operations	MO User
Microsoft Exchange Server	IG-MS、ZDB IG
Microsoft Hyper-V	IG-VirtEnv
Microsoft SharePoint Server	IG-MS、ZDB IG、GRE-SPS
Microsoft SQL Server	IG-MS、ZDB IG
Microsoftボリュームシャドウコピーサービス(VSS)	IG-VSS
ネットワークデータ管理プロトコル(NDMP)サーバー	IG-Var
Oracle Server	IG-O/S、ZDB IG
SAP MaxDB	IG-O/S
SAP R/3	IG-O/S、ZDB IG
Sybase Server	IG-Var
VMware vSphere	IG-VirtEnv、GRE-VMware

以下のディスクアレイシステムファミリとの統合に関する詳細については、該当するガイドを参照してください。

ディスクアレイファミリ	ガイド
EMC Symmetrix	すべてのZDB
HP StorageWorks P4000 SAN Solution	ZDB Concept、ZDB Admin、IG-VSS

ディスクアレイファミリ	ガイド
HP StorageWorks P6000 EVA Disk Array Family	すべてのZDB
HP StorageWorks P9000 XP Disk Array Family	すべてのZDB

## ライセンス

Data Protectorにはインスタントオン・ライセンスが組み込まれており、インストール後60日間ソフトウェアを使用できます。この期間中に、HP Password Delivery Center (PDC)に恒久パスワードを請求し、インストールすることができます。

必要なライセンスをすべて購入した場合、恒久パスワードを使って、ユーザーのバックアップ方針に合ったData Protectorセルを構成できます。

パスワードを入手するには、以下のHP Password Delivery Center (PDC)の電話相談窓口までご連絡願います。

HP Password Delivery Center (PDC) TEL (03)3227-5264

(受付時間: 午前9時～午後5時30分)

(『HP Data Protectorインストールおよびライセンスガイド』マニュアルの「Data Protectorのライセンス」の章に、申請フォーム等の必要な情報が記載されておりますので、上記窓口へのお電話にあたって、事前にご参照ください。)なお、以下のパスワード配信用Webサイトからも、同様に恒久パスワードを入手することが可能です。(英語でのご案内となっております。) <http://www.webware.hp.com>

## 問い合わせ先

HP Data Protectorに関する詳しい情報については、下記のWebサイトをご覧ください。  
[www.hp.com/go/dataprotector](http://www.hp.com/go/dataprotector) また、最寄りの当社営業所もしくは当社製品の販売会社へご連絡ください。

